

光あふれる因幡の森づくり事業
～森へとびこめ!!フォレストダイブ!! in 志子部～

開催趣意書

日本人は古くから森と共に生き、恩恵を受けて暮らしてきました。しかし高度経済成長を経て多くの人は森から遠ざかり、森は徐々にその活力を失いつつあります。

県土面積の3分の1を占める民有人工林のほとんどは、戦後の木材需要により植えられたスギ・ヒノキなどの針葉樹で構成されています。そのうち国産木材需要の低迷、地方の高齢化・過疎化などにより森の担い手が不足して、間伐等の手入れが行き届かなくなった森は「緑の砂漠」と呼ばれる状況に至り、森林の健全な機能が損なわれてきています。

鳥取青年会議所は創立50周年を迎えた2009年に、因幡地域がこれから継続的に発展し、因幡市民が地域に自信と誇りを持つ地域となるために10年間の運動ビジョンとして「環光のまち因幡」推進運動を掲げました。そのなかで因幡のグリーン政策委員会は行政、研究機関、企業と連携し、原木しいたけを活用した鳥取JCしいたけの森をはじめとする環境と経済の好循環を目指した活動を進めてまいりました。そして昨年度は森林環境保全について意識の高い因幡市民の拡大を目的として将来の因幡地域を担う子どもたちとその保護者世代を対象として、「森へとびこめ!!フォレストダイブ!!」という保全体験事業を行いました。

私たちは地域の自然とこれからもずっと共生していかなくてはなりません。また因幡地域がこれから継続的に発展し、因幡市民が地域に自信と誇りを持つ地域となるためには、因幡市民の保全意識を高めて、美しい自然を後世につたえ、将来、他地域にはない魅力ある地域を目指す必要があります。

そこで私たちは、昨年までの因幡のグリーン政策委員会の活動を継承し、因幡市民の森林保全意識の向上を目的として、「森へとびこめ!!フォレストダイブ!! in 志子部」を開催致します。

豊かな自然環境が「環光のまち因幡」推進運動のすべての活動の土台であります。創立60周年を迎える2019年の「環光のまち因幡」実現に向け、当委員会は「日本一自然と共生するまち」を目指して、本年度スローガンである「考働の追及」のもとに、因幡市民の保全意識を啓蒙し、因幡ならではの活発な保全活動を広げてまいりますので、何卒ご理解ご協力賜りますようお願い申し上げます。

公益社団法人 鳥取青年会議所

理事長 田淵 裕章

因幡のグリーン政策委員会 委員長 森本 修平